

会 議 録				
平成30年度第3回 生活支援事業協議体	日 時	平成31年1月25日(金) 14時00分～ 時 分	場 所	前原暫定集会施設 B会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委員	高良委員長(東京学芸大学) 阿久津委員(社会福祉協議会) 近江屋委員(ボランティアセンター) 森田委員(また明日デイホーム) 清水委員(民生委員児童委員協議会) 高橋委員(さくら体操リーダー) 第2層コーディネーター 黒松氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 馬場氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター)		
	事務局	鈴木高齢福祉担当課長、濱松包括支援係長(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可		傍聴者数	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1	開会 挨拶 鈴木高齢福祉担当課長			
2	議題 (1)報告事項 ① 前回検討事項の進捗状況について ② 平成30年10～12月の生活支援連絡会報告 ③ 各圏域の小地域ケア会議について ④ 今年度活動進捗報告(ひがし・きた) ⑤ お元気サミットについて (2)検討事項 ① 生活支援コーディネーターの周知について ② 平成31年度のスケジュール確認 ③ 今年度の市全体の地域ケア会議について			
3	その他			

(1) 次回協議体の開催予定

(2) 委員の委嘱について

4 閉会

1 開会

(高良委員長)

それでは、平成30年度第3回「生活支援事業協議体」を開催したいと思います。皆様、よろしくお願ひいたします。

2 議題

(1) 報告事項

① 前回検討事項の進捗状況について

(濱松包括支援係長)

前回の本協議体の中で民生委員の町別ネットワークに北部地域のみ包括や市の職員が参加していないことが上げられました。その中で清水委員から包括が多忙のため遠慮があったかもしれないけれども、連携の必要性はあるので改めて調整いただける旨の御発言をいただきました。協議体後に行われた町別ネットワークにつきましては清水委員に御調整いただいたと思うのですけれども、北部地域につきましても包括、また市、我々にもお声かけをいただきまして出席させていただくことができました。我々といたしましても地域の実情を一番御存じである民生委員さんの町別ネットワークに参加させていただいて、実際に関係者が顔を合わせて意見交換ができることは地域課題を把握していく上で非常に重要な機会と認識しておりますので、この場をおかりして前回の御報告とともに清水委員に御礼申し上げます。まことにありがとうございました。

(高良委員長)

ありがとうございます。

清水委員、どうもありがとうございました。

(黒松氏)

前回の町別には包括からも2カ所に出席させていただいて、実際にその場で一人一人の民生委員さんの持っている情報をタイムリーに伺える意味はあると実感しましたし、それをまた皆さんにもお伝えできたので、民生委員さんからも貴重な機会と捉えていますので継続して参加してくださいと言っていたので、よかったなと思っています。ありがとうございます。

(高良委員長)

こういうふうに皆さんが一堂に会してお話しする中で、あれ、うちだけ何で行っていないのとか、うちはできているのにみたいな違いが見えることによって課題がわかり、実際に御参加いただいている委員の方々のお力をいただきながら改善することができるというのは協議体の1つの大きな成果ではないかなと思いますので、こういったことがまた可能になりますように皆様とともに共有していければと思います。どうもありがとうございました。

②平成30年10～12月の生活支援連絡会報告

(濱松包括支援係長)

内容につきましては、前回協議体後の生活支援連絡会につきましては定例的な連絡事項、後ほど改めて御報告いたしますけれども、約半月後に迫りましたお元気サミットの内容について主に協議しております。詳細につきましては資料をごらんいただければと思います。

(高良委員長)

では、お元気サミットについては後ほど報告事項のところではありますが、それ以外につきましては、皆様御参加されていらっしゃる方はよくおわかりだと思っておりますが、御参加されていらっしゃらないほかの委員の方々でごらんいただいて何か御質問等がありでしたらお願いいたします。

(清水委員)

10月16日の会議で「シニアのための地域とつながる応援ブック」の配布先が、今、資料を見たら10月時点で3,000部と書いてございます。3,000部というと、はくにはかなり大変ではないかなと思いますけれども、これは老人会なんかには行っていないのでしょうか。市内にいろいろな老人会がありますけれども、そういうところには。

(濱松包括支援係長)

老人会、悠友クラブ等につきましては直接はまだお渡ししていないのではないかとこのところなのですけれども、現状で正確にどのように配布しているかまで把握しておりませんでしたので、改めて把握させていただいた上で回答できるようであれば回答させていただければと思います。

(高橋委員)

さくら体操に参加されている方、各部署のリーダーさん、その方たちは大変積極的で、自分から何かそういった情報はないものかと探していらっしゃるくらいの方がいらっしゃるのです、ぜひさくら体操の参加者さんにもお配りいただけたらいいと思いま

す。

③各圏域の小地域ケア会議について

(高良委員長)

それぞれの包括の方からの御報告についてはこの後の検討事項③のところで御報告いただきまして、その場ですぐにどういうふうな課題があるかを検討していくということで進めていきたいと思います。

④今年度活動進捗報告（ひがし・きた）

(黒松氏)

こちらは30年度になっていると思うのですがけれども、お手元の「計画・評価シート」をごらんいただいて、あと配付させていただいた資料をところどころ見ていただきながらと思います。

目標を3つ、それにあわせた手段を3つという形で計画には矢印で載せているので、上からなのですがけれども、まず一番目の圏域内のPRの点です。先ほどもありましたけれども、応援ブック、大量に作成していただいたものをさくら体操へもちろんお配りしたりはしていますが、全員の方にはしてなくて、やはり最初、わっとはけたのですが、なかなかその後たまったものがありますので、認定を受けていらっしゃる方にも、介護保険のサービスを利用する以外にも、その手前でというか、身近なところで活動があるのだよというところを随時一人一人の職員が伝えられるように手元に持ってお配りしたりはしています。

それから、去年作成したスライドの資料があります。生活支援体制整備事業とか2層のコーディネーターが今、どういう動きになっているのかというところをスライドの資料を使って、今年度は民生委員さん向けに3回にわたって、これはきただけではないのですけれども、4包括で協力し合って7月からそういった説明会という形でさせていただきました。時間は20分くらいでしたか、それぞれいただいて、スライドの説明と質疑応答という形でさせていただいております。目に見える形でその場で質問に答えるやり方にしたのは初めてだったと思うので、今後民生委員さんとか、ここでは町会や事業所、企業などを目標にしているのですけれども、なかなかそれ以外のところにはまだ手が回っていない状況です。

それから、応援ブックなのですがけれども、手渡し以外にも、住民の方から御意見をいただいて、スーパーとかコンビニに置かせてもらうのが一番目につくのではないかとということで、今まで公共機関とか医療機関しか発想がなかったのですけれども、住民の方からの御意見でスーパーいなげやさんとかコンビニさんとかに行ったら快く置

かせていただきましたので、少しずつ広がっていけるかなと思っています。市のほうもラックを用意してくださったので、ただ積んでおくというよりは見えるようにして置けるといところでスマートに置かせていただいています。

②番は2層の協議体というところをテーマにして、小地域ケア会議だけではなくて圏域内でいろいろな地域の課題を住民の方とコーディネーターが一緒になって話ができる機会をたくさんつくりたいということだったのですけれども、昨年度に引き続いて商業の方とのコラボができていのは1つきたの売りかなと思っています。けやき通り商店会の方を中心としたささえ愛ネットというグループで、月1回の2層の協議体という形でミーティングしています。そんな中で黄色い「お元気ですか!？」というパンフレットをごらんいただきたいのですが、東京都のプロボノ、ホームタウンプロジェクトという事業を活用して、ボランティアでこういったデザインをしてくださった、今回は育休中のママたちが募ってデザインをしてくださって、地域がつながって皆さんが元気になるのですよというのを発信できるような、ほかの地域の商業者にも自分のところの商売をよくするには地域をよくするという視点を持っていただけるようなものにしようということで、若いお母さんたちの力でこれができ上がったという形です。今、いろいろなほかの地域の主に商業にかかわる方にお配りできるように配布している状況です。

それから、観光まちおこし協会の方ともお話ができるようになりましたので、介護福祉課の担当の方以外にそういった行政の経済課の方やまちおこしにかかわる行政の担当者の方と会議を開いていらっしゃる場に呼んでいただいて、コミュニティー検定推進意見交換会ですけれども、そこにほとんど月に1回お邪魔して異業種の方との意見交換をさせていただけるようになりました。

「きた通信」をこちらに載せてあるのですが、地域のつながりのところで下のほうに梶野町ないまぜの会ということで、発端は薬局の薬剤師さんとデイサービスの職員さんが梶野町をもっと元気にしたいねというお話で、私のほうに相談がありまして、定期的に話し合いを持てるような場をつくろうということで民生委員さんにお声をかけたところ、梶野町の神社の社務所を使って毎月ないまぜの会というみんなの集まりを持てることになりました。7月くらい、もうちょっと前からやっています。社協の近江屋さんも参加していただいていて、梶野町のもともとの古い住民の方と、このところ新築がかなりふえていて人口は増加しているのだけれども、若い世代との交流の機会が少ないので、そこをつなげる何かいい機会を持ってないかというところを1つのテーマにして、梶野公園という防災公園があるので、そちらの梶野公園まつりの実行委員に今後参加して、地域のつながりづくりをテーマに話を進めていくことになっています。

後ほどお話ししますけれども、小地域ケア会議でちょっとボランティアというと

ここで、地域の方たちのちょっと助けてほしいという気持ちとちょこっとだったら助けられるという人たちをつなげられる2層の協議体が立ち上げられないかという思いがあって、そういった御意見を伺いながら、「きた通信」の裏面に載せたのですけれども、予定としては2月26日桜町センターでちょこボラ会議を立ち上げる予定になっています。電球の取りかえだったり、買い物の荷物運びだったり、そういったことを助け合える仕組みを考えられたらいいなと思っています。

③ですが、通いの場では生き活きサロン、ピースガーデンという場所をお借りして不定期に行っていた多世代、2世代のサロンなのですが、そちらを毎月開催ということで定例化して開催できております。年に一度の生き活きまつりも3月9日に予定して、みんなですいとんを食べようという会で、こちらはアトム薬局さんとピースガーデンさんが中心に行っています。

高齢化したマンションの集会所などを活用して、孤立した方やひきこもりの方を何とか把握したり、表に出ていただくという思いがあったのですが、2カ所ほど、パークファミリアとニュー小金井マンションという圏域内のマンションの自治会の方とか中心となれそうな方にお声をかけてお話の場を持ったのですが、自治会内の方の中にも温度差がいろいろあって、場所の活用の仕方とかルール決めのところで、定例でそういうものを開催するのはなかなかハードルが高いなと感じて、自治会の会員の方も高齢化しているという現状を実感していて、まだ実現には至りそうもないところで、定例ではないけれどもイベント的な開催、講座の会とかそういったものをまずは開けるといいなということで、またアプローチはしていきたいなと思っています。

長くなりました。以上です。

(近江屋委員)

私もないまぜの会の会議にお邪魔しております。梶野公園のサポーター、梶野公園は市と市民が共同で運営しているところが1組あって、そこの方たちとうまくつながって、公園まつりとかに参加して結構活動が広がってきているなと思います。ちょうど梶野町の地域でうちのほうも住民懇談会でだれでもサロンというものをやっていて、そことも行き来して一緒にいろいろ考えていけたらいいのではないかなと思っています。

(清水委員)

高齢化の進む集合住宅の件で、先週の金曜日老人会の新年会をやったときに、そこに住んでいる人から、今、あそこは50所帯くらいあるのではないかと思うのだけれども、子供さんが4人くらいしか住んでいないそうです。皆さんが高齢化してしまって、マンションとしてどうにかしなくてはならないような話をしている人がいました。きょうまた夜、新年会でその人に会うから、どういうことをしたらいいか話して、何かしたい場合には黒松さんに連絡するように言っておきますから。相談に応じるとい

う感じで。

(金子氏)

ひがし包括の活動報告をさせていただきたいと思います。お手元の「課題対応活動計画・評価シート」をごらんいただければと思います。

今年度平成30年度の進捗といたしましては、①の社会資源情報の収集、把握済みの情報の整理を行い、情報紙を作成するということに関しましては、一部ずつ御用意できませんでしたので、活動報告にあわせて資料を回覧いただければと思うのですが、「こんにちは、ひがし地域包括支援センターです」というホチキスどめの冊子を作成いたしました。こちらは10月から配布を始めまして、大体2カ月くらいのスパンの近隣地域で行われている情報を冊子化したものになります。こちらにつきましては地域のサロンに訪問する際ですとか御相談の際にお渡しして、社会支援を把握していただくツールに使っているところです。一応こちらはひがし包括発行物として取り組みをいたしました。こちらは毎月ごとに回数がふえ、発行部数がふえて、今は大体月に100部強刷る形にまで至っているところです。配布した際には皆様からこういったものが今までなかったのが非常にありがたいといったような好評の御意見もいただいているところです。

また同じく①番の商店会まわり、かわら版、センター便り等の取り組みの継続ということにつきましては、毎月定例で新小金井商店会、一部の商店会ではあるのですが、こちらの商店会を訪問させていただいて、気になる方の情報収集ですとか社会資源、こういった冊子を使っただけの情報をお伝えして、情報発信の御協力をいただいているところです。実際に気になる方についての情報提供をいただいたり、引き続きの見守りの御協力をいただくといった関係性も築くことができているところです。

その際に、ちょっと経緯はまだ詳しく確認していませんが、この地域で商店会さんが主体的になって一緒におもちゃ花火をしませんかというチラシをいただきまして、地域発信型の取り組みをしていただいたということで御報告いただいています。私的にですが、ちょっと御様子を見に行かせていただいたのですけれども、お子さん連れのママ達とかいった方たちがいらっしゃっているようなお祭りになっていたところ。このお祭りイベントの開催に当たっては、来月にも第2回目という形で企画されているようでして、商店会の方から包括さんにもまた御協力をというようなお声かけをいただきましたので、今、社協さんと内容については御相談させていただいているところです。この地域の活動を通しまして地域懇談会の中で地域課題を検討したり、商店会の復興だとか地域の居場所づくりなどの課題が上がって、毎月1回定例開催しているカフェが立ち上がったり、こういったお祭りのイベントの開催につながって、本当に地域住民の方が主体となって地域を盛り上げていくそんなコミュニティーづくりが行われた事例ではないかなと感じているところです。

また回覧板の活用ですとか自主活動の支援を行うところの③の目標の手段につきましては、小地域ケア会議を引き続き今年度も同じ地域で行いまして、28年に対象地域を選定した以降、29年、30年と継続して行った今年度3回目の小地域ケア会議になりました。具体的に今年度については、1回目2回目に上がった10課題の中から地域の居場所をつくろうという形で内容の検討を行っているところで、今後コアメンバーとなる方々と相談を重ねていく予定にしております。

その中で居場所がないところでさくら体操を地域の施設を借り受けて始めたのですが、集客がなかなか難しく、もう少し周知とかPRをしていったほうがいいよねというところの1つに移動販売を誘致してみたという御意見がありましたので、今年度移動販売も開始しています。一応その際に使ったチラシがこちらになりますので、そちらもごらんいただけたらなと思っています。移動販売も買い物が困難という課題解決に向けた内容にはなっております、9月に始まったばかりなので、今後さらに地域に対して周していくのと、回覧板ですとか掲示板で周知の継続をしていきたいと思っています。

小地域ケア会議を開催するに当たって、はげのおいしい朝市という活動を地域でされている方がいらっしゃって、本当に地域で活躍されている方とも顔見知りになる機会が持てたのでそんな活動にもつながれたところが成果として収穫になったなど御報告させていただきたいなと思っております。

そのほかセンター会議も継続事業としてひがし包括が行っておりまして、一応介護申請をされていてサービス未利用の方、もしくはかかわりがあるのだけれどもどこにもつながっていない気になる方に対して年4回こういったお便りをお送りさせていただいて、何かあったら包括にという関係性を持たせていただいているもので、こちら参考資料という形で回覧させていただいておりますが、こちら継続事業として行っております。中身は11期にあわせた内容ですとか、同じく地域の居場所の御案内をさせていただいて、どこかでお会いできたらいいよねというような内容になっております。

今年度においては②番の地域活動グループ間の交流の機会を設けるところを手段の中に入れてはいるのですが、今年度準備不足で対応ができませんでしたので、こちらにつきましては次年度の継続課題としたいなと思っております。

そのほかにきた包括の黒松さんからお声かけをいただいて、ささえ愛ネットさんにもお邪魔させていただく機会がございまして、その際にひがし圏域内で活動を御検討されている方がいらっしゃるということで、引き合わせの場をささえ愛ネットさんのほうで設けてくださっております。すぐの動き出しになりそうではないのですが、構想をお持ちの方と顔つなぎができましたので、活動が動き出し等ができるような形でささえ愛ネットさんでも御協力いただけることになりましたので、一緒に立ち

上げ支援をできればなと思っております。

最後に、回覧資料の中で、まだ御出席いただいた皆様にお送りできてはいないのですけれども、今年度の小地域ケア会議のまとめ、報告書がようやく整えられましたので、こういった形で御出席いただいた方皆様には今年度の御報告を振り返りの資料としてお送りしたいなと思っております、次年度につなげていければと思っております。

(高良委員長)

継続して情報をちゃんとまとめた形で伝えていくのは非常に重要なことだと思いますし、いろいろな形でこの地域で活動していらっしゃる方、しようかなと思っている方とつながっていくということは、その後の地域のいろいろな活動につながっていくのだろうと思いますし、実際にいろいろな活動が出てきているわけですね。その活動がいろいろなところで行われてきているというのは、やはり下積みというか、いろいろな方たちにつながっていているという地道な平成28年度からの継続がすごく重要なのだろうなど。ようやくそういうものが本当に形としてどんどん今、見え始めてきているのではないかなという印象を持ちました。ありがとうございます。

⑤お元気サミットについて

(濱松包括支援係長)

本年度のお元気サミットにつきましては2月13日水曜日と14日木曜日の2日間で、いずれも小金井宮地楽器ホールにて実施いたします。

概要といたしましては、13日水曜日は小ホールで認知症に関するイベントとして午前中は講演会、午後はシンポジウムを行う予定です。14日につきましては午前中に小ホールで生活支援に関するイベント、その後にはさくら体操、午後には大ホールで医療・介護連携推進事業に関するイベント、多職種による講演会、シンポジウムを行う予定です。

(2) 検討事項

①生活支援コーディネーターの周知について

(高良委員長)

では、次に検討事項に移っていきたくと思いますが、まずは「①生活支援コーディネーターの周知について」ということで、事務局からお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

前回の協議体で御検討いただいた生活支援コーディネーターの周知について、名刺の肩書ですとかチラシの位置づけなどについて御意見をいただいたところでしたが、前回の協議体の中で現状の整理をした上で本協議体に持ち越しということになっておりましたので、改めて議題として上げさせていただきます。

生活支援連絡会で検討いたしまして、前回御意見をいただきました名刺につきましてはコーディネーターとしての名刺は作成せずに、ふだん皆さん包括の方が使っている名刺にコーディネーターの肩書を加えるほうが望ましいのではないかとということになりました。

理由といたしましては、コーディネーターという名前よりも、包括の職員である、もしくは包括というほうが対象の方の認知度が高いということで、改めてコーディネーターの名刺をつくるよりは包括の名刺に加えたほうがいいのではないかとということで意見がまとまりました。

またチラシにつきましては、きょう追加の資料でお配りしているのですが、チラシに掲載されている応援ブック自体が昨年のものであることと、今回の応援ブックから前のほうにコーディネーターの役割が記載されておりますことから、説明用のツールとして必要な場合には応援ブックを用いて説明すれば足りることから、そういった部分でのチラシの必要性は低くなっているのではないかとということになりました。ただし、チラシに比べて応援ブックは冊子なので、なかなか手にとりにくいとか配架していただきにくいという部分がございますので、簡易的なチラシの作成は継続して公共施設等に配架したほうが一定の効果があるのではないかとということになりました。

それとは別に市のホームページにコーディネーターの役割をわかりやすく掲載する方法がとればというような意見が出てまいりました。

私どもといたしましては、今、申し上げたような形での周知方法をまずはとっていくことを考えたところではございますけれども、この検討結果や他の周知方法について改めて御意見を賜ればと思いますので、よろしく願いいたします。

(森田委員)

日ごろ情報が届かない人へどうやったら手に届くのかなというのを考えているのですが、地域の中で動いてよく見かける光景としては、結構掲示板の前で初老の方が足をとめてよく見ていらっしゃるというのは以前も今も結構見るので、市の掲示板にはこのチラシとかはまだ掲示していないのですか、していましたか。

(高良委員長)

どこまで効果があるのかということと、どういう方にこれがつながったほうがいいのかを考えていけないところなので、生活支援コーディネーターの方がつながっていくのは本当にいろいろな意味で困っていらっしゃる方ももちろ

んそうなのだけれども、どちらかという地域課題に何となく気がついているのだけれども動いていないよとか、でもやはり何かやりたいなと興味を持たれていらっしゃる方のほうが必要性が高いのではないかなという気がするのです。そうなってきた場合に一律に皆さんに配布していく情報として見ると、回覧板みたいなところに入れていくのは1つの方法だろうし、一方で興味があるだろうと思われるような参加されている方とか何とかいう方たちに周知していくやり方と2本柱で行く必要があるのではないかなという気はするのです。そのときに先ほどお話があった応援ブックを1つのツールとして、こういうふうなものでできるのですよみたいなお話をするのは1つ重要なポイントだと思いますが、もうちょっと本当に生活支援コーディネーターはどんなことをしてくれている人なのか分かるようなチラシがあるといいかなという気がするのです。なかなか名刺だけではわからないですね。なのでつくっていただいているのは非常にいいことだと思うのですけれども、もうちょっとわかるといいかなという気がするのです。

(黒松氏)

高良先生に言っていただいたように、何かイベントをしたときのチラシをつくる時に、社協さんとかもそうだと思うのですけれども、下に協力みたいな感じで名前が入るとすごく見てもらえるとされるようで、そういう地域の方の企画するイベントに私たちも協力した場合は「協力きた包括」と載せてもらったりする、さっきの梶野公園まつりとか生き活きまつりもそうなのですけれども、そこには何となく包括という名前を載せる感じが多いと思うのですけれども、包括の中でもコーディネーターとして協力しているという意味合いでは、そういう場面でコーディネーターという言葉をどんどん出していったほうがいいのかなと、今、聞いていて思ったのです。住民の方からすると、いきなりコーディネーターと言われてもみたいところがあるのかなと思って、ささえ愛のパンフレットもここに「きた包括黒松」と載せたのです。写真の上に2層コーディネーターですみたいなものを書こうかという検討があったのですけれども、ちょっとはてなみたいになってしまうかなと思って地域と連携中としたのです。その辺をもっと積極的に出してしまっているのかなというところで迷いがあります。

(高良委員長)

これは多分1つの考え方があって、小金井市では下手に生活支援コーディネーターとまた新しい名前を地域の方に周知していくよりも、包括にやってもらっているのだから、地域包括支援センターにとにかく連絡すれば全部何もかもいけるよねという理解をむしろ広めていくことによって、いろいろな方につながっていきながら、必要に応じて包括の中で、あ、これはやはり生活支援コーディネーターがやったほうがいいよねと分けていくみたいなやり方をしていくのであるならば、あえて生活支援コーデ

ィネーターという名前を下手に使わないほうがよかったりするのではないかなと思うのです。周知とかも。もう包括で一本化してしまう。でも、実際上は生活支援コーディネーターとしてももちろん動いているのだけれども、小金井市の中ではあえてそれを使っていかないのも1つの考え方だと思うのです。それは状況によってどこまで出していくかは検討しなければいけないのではないかなという気がします。

(森田委員)

今、先生がおっしゃったのとほぼ同じ意見ですけれども、この前も話をしたと思いますけれども、きただったら黒松に聞けという感じに各地域でもなっていると思うので、人の顔と名前が地域の方に一致されるような、顔はわかっている、あの人は何だっけ、あ、黒松さんか、包括よりもさらに1歩進んだら黒松さんだと思うので、包括もやめて黒松にってしまったらどうですか。小金井黒松包括支援センター。でも、それぞれの圏域で生活支援コーディネーターさんは最前線なので、地域の方はそれくらい人と顔が結構一致されていると思うので、それをそのまま広げていくイメージのほうがいいかなとは私も感じました。

(高良委員長)

ただ、その場合に皆さん、かわらないでねというのが前提になってしまうのですけれどもね。何せ担当がかわってしまわれるとえらいことになってしまうので、継続性をどれだけ担保してくださるのかみたいなどころが見えてからというところはあるとは思いますが、今、高齢に限らずもう児童も生活困窮も障害もコーディネーターが山のようにいて、あらゆるところでいろいろな名称がいっぱい出てきているので、もうわけがわからないと思うのです。まして片仮名ばかりではないですか。なのでそう考えたときには、ようやく地域包括支援センターがこれだけ定着してきたという状況の中では、それを表に出していくのが1つではないかと思いますが、この点については行政としていかがでしょうか。

(鈴木高齢福祉担当課長)

確かに先生がおっしゃったようにさまざまな職種が乱立というか、たくさん出てきまして、片仮名の横文字を使った名称であったり、非常にわかりにくくなっているのかなというのはあると思うのです。我々もインターネットに情報をよく載せるのですが、特に高齢者の方なんかはインターネットを見ていない方が多い。逆に市報なんかのほうが、紙媒体のほうが高齢者にとってはなじんでいるというか、なれていらっしゃる場所もあって、周知の方法については日ごろから頭を悩ませているというか、いかに市民の方に広く知っていただけるにはどうすればいいのかというところで非常に悩ましいところなのです。先ほども出ておりましたように市の掲示板であったり、チラシを刷って公共施設に置いたりだとかいうことを日ごろもやってはいますけれども、それで十分なのかということは行政全体でも大きな課題になっているのか

なという印象は持っています。

②平成31年度のスケジュール確認

(高良委員長)

それでは、その次になりますが、「②平成31年度のスケジュール確認」は来年度の話ですね。

(濱松包括支援係長)

そうです、これは非常に軽微なことなので、最後の最後で。

(高良委員長)

これは最後でいいですか。

③ 今年度の市全体の地域ケア会議について

(高良委員長)

「今年度の市全体の地域ケア会議について」で上げる課題等を明らかにするために、先ほど報告事項の③で出てきました「各圏域の小地域ケア会議について」ということで御発言いただきまして、その中からこういった課題があると市全体に上げていく必要があるのではないかを検討していきたいと思います。

それでは、資料の順番でよろしいでしょうか。きたエリアからお願いいたします。

(黒松氏)

30年度の報告を簡単に。今までの流れで、27、28でちょっとボランティアという地域の支え合いについて話をして、29年度はふえている運転免許返納の問題をやりまして、30年度はそこにうまくつなぎ合わせたテーマにしていければということで、何で運転免許が手放せないのかということで通院と買い物という課題が見え、今回は買い物に焦点を当てました。エリアを限定して、高齢者住宅がある団地で実際に200何件かのアンケートを集めることができたので、どういったことで困っているのかとか、どういった支援があったらいいのかという具体的なアンケート結果に基づいて1時間半の小地域ケア会議という形でやらせていただいたのです。

実際の会議の中では事例として、一応架空の場所にしたのですが、地図を見ながら、このスーパーに行きたいけれども坂道があるとか、だけれども近所にはちょっとだったらボランティアできるAさんという人がいるとか、そういった想定をしながら意見をいただいて、どういったことだったらすぐできるか、やろうとしても何が問題なのかを具体的に出していただいた形の会議でした。

それが下で配った一番最後の資料なのですが、実現できそうなことと実現には時間がかかりそうなことと整理して皆さんの意見をまとめて、最後の落としどころ

としては実現できそうなことからどういうふうにとったらできるかなということ、ちよこボラできるよという人たちが集まってちよこボラ会議をやってみようよというところに話を持っていっています。

買い物については身近な問題で、皆さん、いろいろと困っている意見が出たので、今後もちよこボラ会議の中でも重点的に話し合いができるのではないかなと思っていて、31年度はそういったところをテーマに会議を重ねてみて、課題を整理していけたらと思っています。

(金子氏)

ひがし包括の小地域ケア会議といたしましては、28年、29年と中町1丁目、4丁目について選定して、30年度も継続して同地区で開催しております。28年度に課題を抽出いたしまして、実際に坂があるとか、ココバスの本数が少ない、近くに店舗が少ない、居場所がないというような課題が上がってきて、それについて29年度には実際にやれそうなこと、やってみたいことをグループワークしました。29年度で継続として地域の居場所というところでさくら体操をやってみたけれども、集客がなかなかうまくいかない、何かPRをしたほうがいいので回覧板を使ったり、あとその施設の駐車場で何か移動販売をやったらいいというような御意見を29年度にいただいたので、30年度はそちらを踏まえて実現に向けて調整をしていきました。

1丁目と4丁目の町会長さんに御相談いたしまして、実際に回覧版も何回か回していただいたり、軌道に乗るまで町内の掲示板には2週間前から掲示しているところです。

そのほかではランチ会の開催も、29年度で参加された方から御自宅開放でやってもいいよというお声が上がりましたので、その内容についても30年度の小地域ケア会議で御報告、あわせてさらにもんでいただくような内容にいたしまして、方向性としましては先ほど回覧いたしました報告書に載せておりましたけれども、地域の居場所づくりプロジェクトというところで月1回程度10時～14時くらいの時間帯で、午前中に男性の料理教室をして、お昼つくったものをみんなで食べて、そのままお茶を飲みながらお話をして解散というような会ができたらいねという話し合いになりました。コアメンバーをこれから集めて、一応この内容について御意見をいただいたものをこの報告書の中にまとめていますので、これをもとに再度検討、練り直して具体的なプロジェクトで進めていければと思っています。このプロジェクトに関しましては、御自宅を開放してくださる方のお隣がたまたま公園になっていて、この公園で何か野菜の販売とかそういった形のものも展開できたらいいよねという内容を詰めておしまして、その内容については市の環境政策課に相談をかけましたところ、使っていて問題ないと了解が得られているので、そちらに向けても進めていきたいと思っています。

ただ、地域の方ではけの朝市もされている方から、やはり皆様は御商売がおありなので、人が来ない中で移動販売に来ていただいても御迷惑になってもという御意見をいただいたので、集客のめどが立ったところで公園での販売を開始していく方向性のほうがよろしいのではないかということになりましたので、まずはこの居場所の会をスタートして、集まる方たちが定着してきたところで公園での販売を開始していくという方向性で動いています。

来年度につきましては、一応このプロジェクトについての話し合いを継続していくのと、始動に向けて調整を行っていきたいなと思っているところと、こちらは「振り返りシート」で誤字があったのですけれども、31年度の予定の背景のところ「東町1丁目」と記載しておりますが、申しわけございません、こちらは「4丁目」となります。東町4丁目と中町1丁目、4丁目の小地域ケア会議を3回ずつ3年がかりで地域を選定して行ってきましたが、31年度に関しましては地域を選定せず、ひがし圏域全体のつながりを持つ会を調整していこうかなという方向性で考えております。これまでのこの地域の課題も踏まえてひがし圏域の共通課題の抽出を目指していくような方向でし、ひがし圏域内での共有化を目指したいなというところで動いております。

(馬場氏)

30年度は、今まで買い物、居場所づくりをしてきまして、買い物の点ではあらず園の協力を得て移動販売などもやってきたので、そういうところを含めて広報活動とかを続けていければいいのではないかという話が出ました。

あわせて世代交流が図れる機会も、一部のサロンでは学生さんと高齢の方が交流ができてとても楽しいという意見もあったりするので、そういう場をふやしていけたらいいのではないかという話が出ていました。

認知症の方に対する理解を深め、地域の見守りの体制強化が29年度の地域ケア会議で認知症の方の話も一部出たこともあったので、そこを背景に入れています。

課題では、居場所のところでは貫井エリアでは居場所が少なく、そこで29年度のときに貫井団地の方々を集めて1回話も聞いたりしました。

認サポについて、認知症の周知活動を各町会で受けてもらう機会がなかなかできていないのではないかと30年度で上がりまして、30年度のところでは去年の5月に貫井団地の防災めぐりを行ったのですけれども、そこから地域の防災に備えてみんなで考えないかというテーマで小地域ケア会議を行いました。災害時は地域においてお互いに助け合いが求められるので、日ごろから多世代の方と通じ合いながら関心を持っていろいろな対策を考えられる機会を持つことも必要ではないかという話がケア会議で参加者の方からお話が出ました。

あと高齢者住宅は貫井エリアにはコンフォール貫井というところがあるのですが、

その高齢者の方と保育園の方々との交流の場を持てればいいのではないかという話が出まして、去年の12月に第1回目のクリスマス会を開きました。今後は誕生日会をお互いにやっていけるといいという話で行っています。

認知症の周知のところでは、地域の住民の方々が認知症に対する正しい理解を持っていただくために、サロン8カ所に出向いて150名の方に認知症サポーター養成講座を行いました。あわせて認知症ガイドブックを持って行って、13カ所に訪問して146名の方にお配りしております。

未解決のところとしては、介護予防相談会を去年4回行ったのですが、参加者が9月の時点ではゼロ人だったと報告を受けています。

地域の見守り体制に関しては、具体的な動きがとれていないところが未解決になっております。

今後の方針としては、日ごろから地域住民の方たちがつながりを持てるような地域づくりについて情報の伝え方、緊急時や認知症の正しい知識と書いてあるのですが、災害時には高齢の方だけだと高齢のためなかなか動けないということもあって、若い方の力が必要だったり、伝達が混乱してうまく伝わらないことがあるので、そういうところをどういうふうにしていくかという話が出ました。31年度、来年度のところでは、高齢の方が地域で暮らすために地域の方の住民同士のつながりが持てるように、日ごろから地域づくりとか情報伝達などをどういうふうにやっていけばいいかが話に上がっています。

課題としては、話し合いをするといつも同じ顔しか出てきていただけないので、地域の中で支え合いや情報伝達ができるような地域づくりをこれから考えていけたらと思っているところです。

(雨宮氏)

にしのエリアではボランティア力と居場所という2点に集約できると思います。実際に30年度は八王子市で8市へ小規模多機能拠点における取り組みについてということで、実際に八王子市で実施している生活支援の報告を講義という形で伺いました。その中でやはり拠点を決めてデイサービスだったりサロンだったりというところが活動しやすいというお話がありまして、八王子市では空き家を市が間に入って借りていただいて、そこを拠点としてサロンの運営やボランティアさんがそこに集ったりというところで、いろいろ経済的な問題はあるのですが、回していっているという話を伺いました。今年度はボランティアの担い手不足という今の私達の問題を、有償のボランティアの仕組みづくり等を検討しながら固定の居場所となるところの選定ができないか考えていきたいと思っております。具体的には小金井市の空き家活用、空き家対策の取り組みを勉強しながら、実際に小金井市で空き家を活用できるかどうか、そこを居場所として活用できるかどうか検討していきたいと思っております。

(高良委員長)

それでは、全体としまして市全体の地域ケア会議で御検討していただきたいと考えられるようなものにつきまして、お聞きいただいていたほかの委員の皆様も何かありましたらお話しいただければ、御意見いただければと思います。

今のところ出てきているのではないかなと思うのが、1つは災害時の情報伝達ということで、特に高齢者に限らずなのでしょうけれども、これは団地に限らないと思うのですが、団地でのスピーカーの劣化とかの問題。また団地に限らず災害時のいろいろな伝達における聞きづらいついとか実際に情報が届いていないといったような課題になるのだと思います。これについてまず1つ上げる可能性、必要性があるのではないかと思います。

2点目が先ほど出ました空き家の活用も必要性があつて、これについては情報をどうとるのかももちろんそうですし、あとは活用するとなつても実際に本当にお持ちでいらっしゃる方が明確ではない場合とかいろいろなパターンがあると思うので、そういったところを行政としてどういうふうなかかわりを持っていらっしゃる、対処をしていらっしゃるのかがわかつた上でのことですけれども、どういうふうに活用できると考えたときに、どういうことを整備して、どういうふうにやられていくのかを市レベルで御検討いただく必要があるのではないかと思います。

次に3点目としてはバスです。これもずっと前々からココバスについては出ていたと思うのですが、どうしてもどんどん民営バスの本数が減っているのは小金井市に限らず東京都でもいろいろなところで行われていることだと思うのですが、そうなつてくると本数が減つたことによる不利益をどう補つていくのかという、もちろんココバスのような市が運営しているもので補つていくことも必要になつてくつて思いますし、もちろんほかの対応としていろいろとやられていらっしゃるわけですが、こういつたところについては市レベルで御検討いただく必要もあるのではないかなと思います。

最後4点目としてはボランティア。ボランティアに関しては、ボランティアができる人たちがどうしても高齢化して少なくなつてきている状況の中で、いかにしてボランティアの力、担い手になつてもらえるような方たちをふやしていくのか。かつそれと同時に最初のところにも出ましたマッチングとかも含めていかに中心になつていただけるような方をどういうふうに確保するのか。それはもちろん行政として責任を持つて誰かしらを設置するのだみたいな考え方もあれば、社協でやられているように主になるような市民の方の中で、でもやはり無償では続かないので何らかの、有償なりもしていつて継続できるような形をつくつていくとか、そういう仕組みも含めての話し合いを市レベルでもやつていく必要があるのではないかと思いますので、そういったところが主な課題として上がつてきたのではないかなと思つましたが、ほかにいか

がでしょうか。これはぜひ市レベルで考えたもらったほうがいいのではないかと。

② 平成31年度のスケジュール確認

3 その他

- (1) 次回協議体の開催予定
- (2) 委員の委嘱について

(高良委員長)

それでは、時間が非常に少なくなってまいりましたが、検討事項②に戻りまして、「平成31年度のスケジュール確認」をお願いいたします。

(濱松包括支援係長)

事務局、濱松でございます。

時間も少なくなってまいりましたので、検討事項②とその他(1)(2)をあわせて御案内させていただければと思っております。

まず検討事項につきましては、次年度のスケジュールなのですが、開催の予定を確認させていただければと思っていたのですが、本年同様5月、9月、1月の開催でよろしいか御意見を賜ればと思っております。

4 閉会

(高良委員長)

時間ぴったりとなりました。平成30年度第3回の「生活支援事業協議体」をこれで終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。